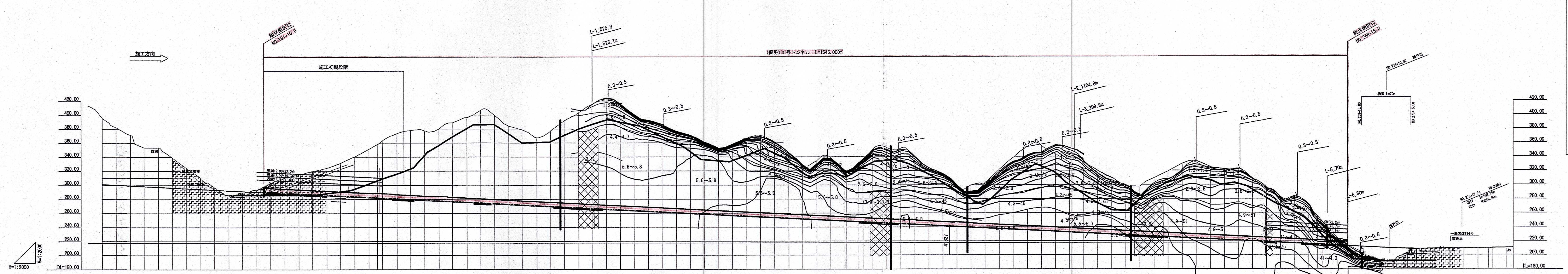
計 測 工 割 付 図

S=1:2000



測点	NO.180 NO.181 NO.182 NO.183 NO.184 NO.185 NO.186 NO.187 NO.188 NO.189 NO.190 NO.191 +10.0 NO.192 NO.193 +4.0 NO.194 NO.195 NO.196 NO.197 NO.198 +15.0 NO.199 EC4 NO.200 +15.0 NO.201 NO.202 +5.0 NO.203 NO.204 NO.205 NO.206 +10.0 NO.207 +15.0 NO.208 +5.0 NO.209 NO.210 NO.211 +15.0 NO.212 +5.0 NO.213 NO.214 NO.215 +15.0 NO.216 +5.0 NO.217 NO.218 NO.219 NO.220 NO.221 NO.222 NO.223 NO.224 NO.225 NO.226 NO.227 NO.228 NO.229 NO.230 NO.231 NO.232 NO.233 NO.234 NO.235 NO.236 +15.0 NO.237 +5.0 NO.238 NO.239 NO.240 +10.0 NO.241 NO.242 NO.243 +10.0 NO.244 NO.245 NO.246 NO.247 NO.248 NO.249 +10.0 NO.250 NO.251 NO.252 NO.253 NO.254 NO.255 NO.256 NO.257 NO.258 NO.259 NO.260 NO.261 NO.262 +15.0 NO.263 +15.0 NO.264 NO.265 +10.0 NO.266 EC4 NO.267 +10.0 NO.268 +15.0 NO.269 NO.270 NO.271 NO.272 NO.273 +5.000 NO.274 NO.275 +13.023 +19.904 NO.276 +3.724 NO.277 NO.278 NO.279 NO.280	測定箇所
断面区分	坑門工 — DⅢa, DⅠ-b, CⅡ-b, CⅠ, CⅠ-L(L), DⅠ-b, CⅠ, CⅠ-L(R), CⅠ, DⅠ-b, CⅡ-b, B, CⅠ, DⅠ-b, CⅡ-b, B, CⅠ, DⅠ-b, CⅡ-b-L(L), B-L(L), B, CⅠ, CⅠ-L(R), CⅠ, B, CⅠ, DⅠ-b, CⅠ, DⅠ-b, CⅠ, DⅠ-b, DⅢa — 坑門工	
延長	0.6, 33.4, 56.0, 55.0, 11.6, 26.8, 31.6, 21.6, 26.8, 36.6, 25.0, 10.0, 70.0, 10.0, 70.0, 10.0, 315.0, 40.0, 56.6, 8.4, 18.35, 46.65, 6.6, 26.8, 146.6, 60.0, 10.0, 60.0, 135.0, 20.0, 35.0, 40.0, 24.3, 0.7	
計測工A 坑内観察調査	掘削日毎	
計測工A 内空変位測定		65
計測工A 天端・脚部沈下測定		65
計測工A 測定間隔	6@10m=60m (2D以下), 7@20m=140m (施工初期段階), 20m, 2@30m =60m, 2@20m =40m, 3@30m=90m, 4@20m=80m, 9@30m=270m, 25m, 2@30m =60m, 2@20m=60m, 11@30m=330m, 3@20m=60m, 4@30m=120m, 5@20m=100m, 3@10m =30m	
計測工A 地表面沈下測定		12
計測工A 測定間隔	4@5m=20m (1D未満), 3@10m=30m (1D以上～2D未満), 1465m, 10m (1D以上～2D未満), 4@5m=20m (1D未満)	

計測工Aの内容

		測定間隔	測定頻度		備考
計測工A	坑内観察調査	——	掘削日毎		①切羽の自立性、素掘面の安定性 ②岩質、断層、破砕帯、褶曲構造、変質帯等の性状把握 ③支保工の変状把握 ④当初の地山区分の再評価
	内空変位測定	30mに1ヶ所及び設計パターン変更ヶ所。施工初期段階(200m程度)は20m。2D区間及び坑口付近は10mに1ヶ所。	変位速度	頻度	変位量、変位速度、変位収束状況、断面の変形状況により、 ①周辺地山の安定性 ②支保工の設計・施工の妥当性 ③覆工の施工時期等を判断する。
			10mm/日以上	2回/1日	
	天端沈下測定		10～5mm/日	1回/1日	トンネル天端の絶対沈下量を監視し、断面の変形状態を知り、トンネル天端の安定性を判断する。
	脚部沈下測定		5～1mm/日	1回/2日	トンネル脚部の絶対沈下量を監視し、断面の変形状態を知り、トンネル脚部の安定性を判断する。
			1mm/日以下	1回/1週	
	地表面沈下測定	土被りによる。 1D未満 5m程度 1D以上～2D未満 10m程度	——		坑口部や土被りの小さい区間でトンネル縦断方向に地表面の沈下量を測定し、トンネル掘削の地表面への影響とトンネルの安定性を評価する。

内空変位, 天端・脚部沈下の測定間隔

地山等級 \ 条件	坑口付近	土かぶり2D以下 (D:トンネル掘削幅)	施工初期の段階	ある程度施工の進んだ段階
A,B	10m	10m	20m	必要に応じて実施
CⅠ,CⅡ	10m	10m	20m	30m
DⅠ,DⅡ	10m	10m	20m	20m
E	10m	10m	10m	10m

注) 施工の初期の段階とは、200m程度の施工が進むまでの段階をいう。

実施設計 [(仮称) 1号トンネル]

令和 6 年度 浪江三春線 第24-41370-0092号				
双葉郡浪江町大字川房字矢具野地内				
道路橋りょう整備(再復)工事(トンネル)				
計測工割付図				
縮尺	S=1:2000	図面番号		43/70
測量			主任技術者	
設計	大日本ダイヤコンサルタント株式会社		管理技術者	
福島県 相双建設事務所				